

令和4年度（一社）隠岐ジオパーク推進機構事業報告書

《令和4年度方針》

令和4年4月1日に（一社）隠岐ユネスコ世界ジオパーク推進協議会と隠岐観光協会が合併し観光地域づくり法人「（一社）隠岐ジオパーク推進機構」を設立し、4島広域組織の合併により、ジオパークを基盤とした観光振興を推進するとともにより効率的な組織運営を目指す。

また、これまで両組織が担ってきた環境・教育・観光の3つの領域の発展・振興を引き続き担いつつ、3領域にまたがる事業を積極的に行うことにより、DMOの目指す隠岐諸島の未来像「社会・経済・環境三方良し」の実現を図る。

なお、事業実施にあたっては行政・民間企業と連携しつつも、役割分担を明確にした事業実施によって、コロナ禍で落ち込んだ観光産業の維持・回復を喫緊の課題とし、積極的に誘客施策を行う。

《総括》

合併初年度で事務局体制はまだ課題が多いが、定期的な社内会議（運営会議・職員会議）、職員面談の機会を増やし、情報共有の徹底、課題解決に努めている。事業進捗については、グループごとに責任を持たせ概ねスケジュール通り進めているが、会員、関係者の巻き込み方を改善する必要がある。

1. 基本計画策定事業 6,000,000円 ⇒ 6,278,000円

(1) 全体構想策定 0円

令和3年度に策定した全体構想の骨子版に基づき全体構想の本文作成を行う予定であったが、アクションプラン策定を優先しR5年度以降に実施予定。

(2) アクションプラン策定 2,000,000円 ⇒ 2,278,000円

環境省「令和4年度地域循環共生圏づくりプラットフォーム構築に向けた支援事業」を活用して、令和7年度までの具体的な行動計画（アクションプラン）の策定を行う。

【実績】

アクションプラン策定は、（株）ジオ・ラボに「策定支援業務」として委託契約を締結。担当職員へのメンタリングやワークショップのファシリテートの支援をうけている。本計画は事務局のみならず隠岐全体で活用することを目的に、当機構の観光および教育・環境の両部会員にも全2回のワークショップへの参加を依頼し、「いつ・誰が・どんな」事業を実施するかを可視化すべく実施。

2回のワークショップを通じて、草案に対する部会員からのフィードバックを収集し、部会員と協働する行動項目をアクションプランに盛り込んだ。

《事業評価》

基本構想各章において関係団体の計画、目標を集約したうえで、DMOとしてのアクションプランを作成出来た。次年度以降、住民含め幅広い関係者にアクションプランを共有するとともに実行していく。

(3) 宿泊施設高付加価値化計画策定 4,000,000円

2029年度の目標値である「推定観光客数55,000人」「平均宿泊数2.0泊」「延べ宿泊者数95,000人泊」の達成のために、一人当たりの観光消費額増加が不可欠との共通認識を得ているものの、各地域における宿泊施設の最適なポジショニングやキャパシティは明確にできておらず、今後の隠岐地域の宿泊施設整備に向けた検討材料が不足している現状にある。

このことから、現状の宿泊施設の調査及び分析を行うとともに、今後の隠岐地域全体で目指す宿泊施設のあり方を検討し、ハード・ソフトともに施策の基礎となる資料となることを目的とする。

【実績】

- ・1月に宿泊施設へ向けてアンケート発出（全61施設中43施設から回答）
- ・2月6日～8日、19日～20日に現地ヒアリングを実施（43施設のうち13施設へ深堀調査）
- ・3月27日に調査結果報告会を実施し、協力頂いた宿泊施設並びに観光関係者と共有し、客単価向上、ターゲット設定等今後の方向性について目合わせした。
- ・アンケート内容及びヒアリングの結果を受けて、宿泊施設における誘客・生産性向上・施設改修の分野における今後の展望を抽出した。作成した計画は、R5年度以降の誘客促進・着地整備事業に活用する。

《事業評価》

コロナ禍での厳しい経営状況、人材の確保、施設・設備の老朽化等の課題が浮き彫りになったが、事業者単位での自助努力には限界があるため今後地域として課題解決に向かう必要がある。

2. ブランディング事業 5,620,000円 ⇒ 5,509,700円

(1) ブランディング方向性策定及び写真撮影

令和3年度から取り組んでいる地域ブランディング及びDMOの組織ブランディング（コーポレートブランディング）について、引き続き（株）アマナに委託し、今年度はブランドの方向性を検討しブランドマニュアルの作成（地域及びDMOのブランドカラー・フォント等の決定）や戦略に基づいた写真素材の収集を行う。

【実績】

- ①春、夏、秋、冬の写真撮影を実施。観光誘客のための制作物や、WEBの写真などを広く使える写真素材として共有予定。何年も長く使い古した旧来型の観光名所の写真を、ジオパークの視点に変え、価値をあげていく。
- ②隠岐で制作する制作物のデザインや雰囲気を統一させ、ブランディングを定着させるために、カラーリングやフォントなどのブランドルールを制作。

《事業評価》

R3年度から継続して実施しておりDMOの組織ブランディングはある程度固まったが、ブランディングは5～10年掛かると言われており、長期的な戦略で取組まなければならない。今後は地域に定着させるとともに、しっかり活用していく。

3. ネットワーク事業 6,300,000円 ⇒ 6,467,084円

(1) モンベルとの連携 660,000円

モンベル会員向け情報誌に記事及びアウトドアアクティビティ情報を掲載し、モンベル会員への認知拡大を図る。

【実績】

モンベル会員向けの広報誌に隠岐の情報を掲載。関西国際空港から隠岐空港へのJALチャーター便でのモンベル会員を対象としたツアーが実施された。（6月4・5日で実施：41名参加）

《事業評価》

隠岐の島町との包括連携協定もあり、今後さらに連携を深める。次年度もツアーを計画中。

(2) ICT活用 1,320,000円 ⇒ 2,530,000円

SONYテレプレゼンシステム「窓」を活用し、ジオパーク拠点施設間をつなぐことで、島前・島後どちらの拠点施設からでも来訪者からのジオパークへの疑問・質問に対応できる体制を整える。また、拠点施設間のコミュニケーションツールとして活用し、業務の円滑化を図る。

【実績】

これまで、隠岐ジオゲートウェイ2F隠岐自然館とEntoジオ事務所の2拠点をつなげ、職員間のコミュニケーションをとってきた。さらなるコミュニケーションを図るため、設置場所をジオゲートウェイ側は2Fから1Fに移し、カーテン機能を使わず常に互いの事務所の人の動きを把握できるようにし、業務を行っている。

また、島内の高校や「窓」を導入している島外のジオパーク地域、企業とつなぎ、交流を行っている。

7月13日 北海道地図と接続 三笠中学校遠隔授業

9月18日 佐渡ジオパークと接続 情報交換

《事業評価》

「窓」を使用することで、島前島後の2拠点間のコミュニケーションは向上し、急を要する案件も対応が迅速になった。また、隠岐以外の地域との交流を継続し、隠岐の子どもたちが地域外の講師または同世代の子どもたちと交流をはかっていく事業が立ち上がっている。（現在、隠岐高校と北海道の三笠高校との交流事業実施に向けて進めている）

(3) ICTソフトコンテンツ作成 350,000円 ⇒ 178,000円

Googleグラスを活用し、コロナ禍により実際に隠岐に来訪できない層に対して、ジオパークの魅力を伝えることのできるコンテンツを制作する。

《事業評価》

Googleグラスに入っているオンラインアプリはGoogleMeetであり、映像の解像度では、オンラインツアー等の活用には向いていないため、今年度は教育関係者と社会教育の側面で活用できないか検討中。

(4) GGN再認定審査 2,010,000円 ⇒ 1,846,818円

昨年度新型コロナウイルスの影響により延期された現地審査。7月～9月に3泊4日の行程で行う。

【実績】

9月4日～8日にかけて、スペインとフィンランドからの審査員を迎え再認定現地審査が実施された。前回の再認定審査は3泊4日での実施であったが今回から4泊5日の日程となっ

た。概ね好印象を持ってもらったと感じており、特に隠岐高校と隠岐島前高校の教育の取り組み、隠岐の島町と海士町での拠点施設整備の取り組みが高い評価を受け、12月16日に再認定された。

(5) JGN・GGN大会経費 1,960,000円 ⇒ 1,252,266円

- ・APGN国際会議（タイ）
- ・地球惑星科学連合大会（幕張）
- ・JGN総会（東京）
- ・JGN全国大会（石川県白山市）
- ・JGN中四国近畿ブロック会議（四国西予GP）

【実績】《事業評価》

APGN会議、再認定現地審査、JGN全国大会での隠岐高校の取り組み（ジオパークを取り入れたSDGsを意識した学校教育プログラムの実施、金沢工業大学との連携によるご当地SDGsカード作成など）、当機構のブランドブックを紹介したところ、世界をリードする取り組みであるとの評価を得るとともに、国内・国外の高校との交流事業のきっかけができた。

4. 教育推進事業 8,919,464円 ⇒ 8,485,337円

(1) ジオパーク学習会 1,027,473円 ⇒ 1,106,600円

隠岐島内の学校及び地域内の団体が隠岐ジオパークを活用とした学校教育および生涯教育活動を円滑に取り組めるように、講師派遣の支援を行う。

【実績】

2023年3月末時点で92件の派遣を実施した。

実施内訳 学校関係73件(保育園3件含む) 地域関係19件

《事業評価》

今年度は、昨年度に比べてコロナ禍前に比べて講師派遣申し込みの件数が戻りつつあったが、秋以降荒天による実施延期や中止等が多く、昨年度より少し件数が多いぐらいにとどまる見込みである。しかし、今年度は西ノ島町内の保育園より申込が数件あるなどの成果もあった。

(2) 高校魅力化事業との連携 111,690円 ⇒ 79,440円

隠岐島内の高校生を対象に海外の地域に対する関心度の向上のために、オンライン会議室システムを活用しながら、英語で会話する楽しみや海外への興味関心を高め、英語で表現する力を身につける活動を実施する。

【実績】

4月上旬に隠岐高校の生徒とルーマニアのジオパーク地域とオンラインを活用した交流事業を実施。また、5月中旬にはベトナムのジオパーク地域とオンライン交流事業を実施。2月9日に2回目のベトナムのジオパーク地域と隠岐高校、隠岐島前高校と交流を行実施。海外の地域と交流することで、文化の違いや自地域の良さを見つめなおす機会となっている。また個人で主体的に韓国のジオパーク地域と交流する生徒も出てきている。

《事業評価》

コロナ禍で現地対面での交流はできていないが、昨年度よりオンラインを活用した交流を

実施したことにより、香港ジオパーク地域以外のヨーロッパや東南アジアのジオパーク地域と交流するなど、年間を通して隠岐の高校生が世界の同世代と繋がり、共通のテーマをもって活動することができた。

(3) 英語キャンプ 225,142円 ⇒ 249,132円

隠岐島内の中学生を対象に、島内の地域資源を活用したフィールドワーク等に取り組みながら、英語で会話する楽しさや地元、海外への興味関心を高め、英語で表現する力を身につける活動を実施する。

【実績】

新型コロナウイルス感染症の影響により8月上旬実施を10月中旬に延期し、隠岐の島町五箇地区にて開催した。当日は8名（島前:3名、島後5名）の中学生が参加し、水若酢神社周辺で英語でのフィールドワーク等を行った。

《事業評価》

参加者全員が事後アンケートで、事業を通して英語での会話力向上と海外との交流に高い関心を高めることができたと回答していることから、次年度以降も継続的に実施する。

(4) ジオパーク新聞発行 800,000円 ⇒ 917,078円

年間3回（夏・秋・冬号）の発行。地域住民を対象として、ジオパークの要素や遺産について身近に感じてもらえるように紹介する一方、拠点施設や宿泊施設に配布し、多様な方に手に取ってもらえるような誌面作成を行う。

【実績】

7月にオキドキVor. 16、10月にVor. 17を13,000部発行し配布した。また、2月に「隠岐ジオパーク推進機構新聞」（隠岐ジオパーク再認定審査の特集）を発行した。

《事業評価》

今年度から「隠岐ジオパーク推進機構新聞」を発行し、当機構の取組を定期的に情報発信することにより住民にジオパークの活動を広く知ってもらう。

(5) 隠岐体験事業 6,532,464円 ⇒ 5,935,389円

島根県自然環境課より委託を受けて、「しまねの子共たちの隠岐ユネスコ世界ジオパーク体験事業」を実施する。7月～8月の平日に2泊3日の行程で島前・島後各3回（1回あたり定員12名）の計6回開催。

【実績】

新型コロナウイルス感染症蔓延防止のため現地開催を中止し、10月上旬に代替イベントとしてオンラインでの体験学習を2回実施した。現地参加予定だった72名の子どもを対象に再度参加案内を行い、31名の申し込みがあり当日は29名が参加した。参加した子どもたちは隠岐で体験ができなかったが、オンラインイベントの内容はとても楽しかった等の感想があり、イベントの満足度は高い結果となった。（実施後のアンケート結果より）

《事業評価》

毎年参加申込み数は多く倍率は非常に高いため、次年度も継続する。

(6) 地域連携事業 96,153円 ⇒ 47,544円

教育委員会や公民館等と連携し、環境問題・地域課題等への関心を持つイベントに参加または実施する。

【実績】

- ・ 隠岐の島町
 - 5月27日 社会教育関係職員研修会への参加
 - 9月10日 自然体験活動指導・支援者研修会への参加
 - 3月5日 青空探検隊野外体験会実施予定
 - 3月26日 エコフェスタ実施予定(まちづくり運動協議会生活環境部会)
- ・ 西ノ島町
 - 4月23日 新任職員研修会への同行
 - 11月12日～20日 文化展への展示
- ・ 海士町
 - 11月20日 産業文化祭への参加。
- ・ 知夫
 - 11月12日 どっさり祭りへの参加 ※コロナ感染拡大防止のため、祭り自体が中止。

《事業評価》

住民にジオパークの活動を広く知ってもらうために、各町村で実施されたイベントに参加し、積極的に地域へ発信することができた。また、隠岐の島町では教育委員会、公民館等と連携し野外体験会を企画するなど、関係機関との横のつながりを強化することができた。次年度も積極的に地域に出ていくことと島前の関係機関との連携を強めていきたい。

(7) 紙芝居印刷 95,288円

昨年度、作成したジオ紙芝居の第3弾「人の営み編」を作成し、地域内の図書館、小学校、保育園に配布し、小学校低学年、未就学児を対象に遊びの中で、隠岐への関心をもってもらう。

【実績】

印刷業者に印刷を依頼し35セット印刷。地域内の保育所、小学校、図書館等に随時配布した。

《事業評価》

今回の「人の営み編」の配布によって、ジオパークの3要素ごとに紙芝居を完成することができた。これまで作成してきた「固有種編」や「奇岩編」は地域内の保育園等を中心に活用し、園の発表会に活用していただくなど想定以上の活用につながった。今回の「人の営み編」も地域内の祭りや踊りをテーマにしているため、今回作成した紙芝居も同様の活用が期待できる。

(8) 事務局旅費・需用費 54,866円

5. 誘客促進事業 112,958,845円 ⇒ 106,588,430円

(1) 観光マーケティング 2,000,000円 ⇒ 1,965,028円

ZohoCRM（顧客管理システム）や来島者満足度アンケート等を活用して定期的な市場の観測を行い、誘客施策展開のための基礎データの分析を行う。分析にあたっては、業務の一部を（一

社）海士町観光協会に委託。

【実績】

島内のデータを定期的に収集し、観光部会を中心として情報共有を行った。

- ・ZohoCRM Plusを活用して、R4年度6,000件の顧客情報を獲得した。（R3実績：約3,670件）
- ・WEB問合せ、チェックインシート：5,000件（参画施設14件）
- ・おき得乗船券：7,500件
- ・満足度調査アンケート：1,030件

《事業評価》

データ収集のルーティーン化など、データをもとに施策を立てていくことが島内に定着してきている。また、コロナ禍ではあったが、目標人泊数は達成することが出来た。

※宿泊人泊数：目標60,000人泊、結果65,377人泊

今後、より精緻なデータ取得のために、観光DXを推進していく。

(2) 夏季誘客プロモーション 3,199,870円 ⇒ 3,336,870円

OTA「じゃらん」を活用し、7月～8月にかけてプロモーションを行う。

【実績】

コロナ前2019年度の人泊数の取り戻しを目標に掲げて施策をおこなった。「夏の隠岐」ど真ん中のコンテンツで、数を積むためにマス向けの広告としてOTA（じゃらん）での特集ページとGoogleでのリスティング広告を実施した。結果としてはコロナ前平均対比75%の着地となった。

《事業評価》

- ・コロナ前に対して約25～30%足りておらず、KPIは達成できなかった。
- ・第7波の影響が大きく、期待していた夏休みで数字を伸ばせなかった。
- ・6月は、コロナ感染者数がこの半年で一番落ち着いていたにも関わらず数字を伸ばせなかった。

(3) イベント型集客プロモーション 1,740,481円 ⇒ 886,370円

R4年4月に開催する「島の体験博in隠岐」の催行に係る経費、及びR5年の春に企画予定の集客イベントのプロモーション及び企画開発を行う。

【実績】

- ・R4年度参画体験数：32／R4年度体験参加者数：137
- ・R5年度体験博プロモーション：リスティング広告配信

《事業評価》

地域の事業者の声を丁寧に拾い、事業者が長年抱いてはいたものの実現できていなかったアイデアを形にすることができた。これにより、観光を本業としてない事業者も観光を通じて副収入を得られるようになった。また、R5年度は前年度に比べテーマ性および体験数をしぼり、その分事業者が当該期間以降も実施できる体制を目指した。一方で、事業者の思いが先行するあまり、体験商品の内容が顧客にとって利用しやすい形になっていなかったものもあった。今後は顧客の視点も取り入れながら体験商品の内容を発展させていきたい。

(4) ラッピングバス 220,000円

松江駅－七類港・境港間の隠岐汽船連絡バス2台に隠岐ユネスコ世界ジオパークのラッピングを行い、隠岐への誘客促進を図る。

《事業評価》

本土側地域住民はもとより、本土側観光客へのプロモーションにもなっているため継続。

(5) 誘客宣伝事業 1,885,895円 ⇒ 1,530,935円

島外の旅行会社、メディアに対する営業活動や情報発信に係る経費

【実績】

① 島根県観光情報・素材説明会 主催：（公社）島根県観光連盟

参加者：角橋・久永・河本

10/24：大阪会場@ホテルモントレ大阪

10/25：東京会場@ホテルアジュール竹芝

② 第79回中国ブロック観光情報交換会 主催：中国5県東京事務所

参加者：河本

2/16：都道府県会館4階 401会議室

《事業評価》

今年度からリアル×オンラインのハイブリッドでの説明会が開催されるようになったので現地参加したが、商談した旅行会社、メディア関係者からはやはりリアルでの説明の方が伝わりやすいとの声もあったので、今後B to Cのリアルイベントについても検討する必要がある。

(6) メディア露出強化及び旅行会社商品造成支援事業 709,693円 ⇒ 1,145,551円

実際に来島して取材し、記事を制作するメディア及び旅行会社商品造成のための視察に対して、島内の交通費・宿泊費等を支援することによってメディア露出及び旅行商品を増加させる。

【実績】

ジオパークを土台とした内容で、ライフスタイル紙やファッション誌など広いメディア媒体に掲載を試みている。掲載費は出さず、宿泊費・交通費を助成することにより、費用対効果の高い事業となっている。

- ・婦人画報取材
- ・BSよしもとロケ2回（6/21・3/7）
- ・わおマップ（英公社）広告料
- ・インバウンド遊覧船チラシ印刷
- ・旅YouTuber取材

《事業評価》

情報発信についてはなかなか成果が見えづらいが、今後もより効果が高そうなメディア、媒体を使って、ターゲットを絞った情報発信に努める。

(7) 企画乗船券造成事業 38,066,000円 ⇒ 37,500,383円

好評だった令和2年度～令和3年度と同等スキームの「おき得乗船券」（条件クリアで復路無料）の企画・販売・宣伝。今年度の目標はR4.4～R5.2で6,000枚。

【実績】

- ・販売期間：2022年4月1日～2023年2月28日
- ・実績：7,159枚（精算実績6,911枚）
- ・インバウンド対応のため、英語版WEBサイトを作成
- ・じゃらんnetにLPを作成し、LPへの流入を促すためのバナー広告掲載
- ・関西中四国版のじゃらん本誌記事掲載
- ・8月末で予約含め6,000枚に到達したため、目標枚数を7,000枚に上方修正

《事業評価》

昨年度までは中国地域（特に県内）からのお客様が多かったが、コロナの影響もおさまり遠方からのお客様が増えた。体験メニューも昨年より増え、お客様の満足度も高いため、今後も誘客施策の柱として期待出来る。また、次年度には電子版を作成し、より顧客の利便性、データの収集・活用、事務手続きの効率化をはかる。

(8) 春季版企画乗船券造成事業 4,000,000円 ⇒ 3,695,330円

有人国境交付金では対象としづらい年度末（R5.3）の割引に係る経費と、年度初め（R5.4）のチケット作成等の企画開発及びプロモーションを行う。（販売目標：400枚）

【実績】

- ・販売総数503枚（目標400枚）
- ・企画、開発、宣伝：おき得乗船券専用販売HP作成、チケット・チラシ・ポスター等作成
※隠岐汽船（株）へ委託

《事業評価》

販売総数が目標値より大幅に達成し、年度をまたいで切れ目ない販売と早期のアプローチにより、販売数増加が期待出来る。

(9) 電子クーポン発行事業 30,564,000円 ⇒ 27,016,957円

R3年度に内閣府の実証事業にて実施した「島バウチャー」の隠岐版を実施する。スタンプラリー形式で1泊及び1観光体験で1回あたり5,000円のクーポンが電子でもらえる仕組み。付与されたクーポンは島内の飲食店や土産店などの登録店舗で使える。

【実績】

- ・10月1日～配布開始
- ・実績：2,112枚
- ・対象施設数
スタンプラリー（観光）：53体験
スタンプラリー（宿泊）：28施設
決裁加盟店：70店舗
- ・目標枚数を2,800枚に下方修正

(10) 交流促進事業 500,000円 ⇒ 401,988円

①島の宝観光連盟

全国5地域（佐渡、隠岐、杣岐、五島、天草）の島が加盟している観光団体（島の宝観光連盟）の活動費。今年度は隠岐が事務局となり、東京での「島旅アンバサダー」プレスイベントや地域ごとのオンラインイベントを実施。

【実績】

4/17 全体会議@佐渡 参加者：角橋・角脇

5/14 島旅アンバサダー委嘱式@東京 参加者：池田理事長・角橋・角脇

オンラインイベント：7/27@佐渡、8/26@隠岐、9/30@杣岐、10/28@天草、12/9@五島

《事業評価》

オンラインイベントの参加者は少なかったが、満足度は高かったのでファン獲得に繋がった。次年度はリアルイベント@東京で開催し、今後も交流、連携を深め情報発信強化⇒誘客に繋げていく。

②松江・境港・隠岐観光振興協議会

新型コロナウイルス感染防止のため令和4年度臨時総会@海士町開催を見送ったが、情報発信事業については、予定通り実施する。

【実績】

1. インフルエンサーを活用した情報発信

NHK大河ドラマ【鎌倉殿の13人】の人気により、重要な登場人物である『後鳥羽上皇』ゆかりの隠岐・海士町の魅力発信のため、歴史をテーマに動画チャンネルを持つ、れきしクンこと「長谷川ヨシテル」氏、お城博士ちゃんこと「栗原響大」氏（両名とも松江観光大使）に依頼し、動画制作、配信を行う。

テーマ：歴史スポット

撮影場所：隠岐の島町（国府尾城跡）、海士町（後鳥羽上皇関連）、境港（台場など）

撮影日程：1月28日（土）、29日（日）

Youtubeサイト：[それいけ！れきしクンTV - YouTube](#)

2. メディアを活用した情報発信

デクスター社が運営する「人と世界に会える、オンライン旅」とするオンラインツアープロジェクト「世界仮想旅行社」。（2年間で累計約2.5万名の参加者）

旅マエにオンラインで現地在住者に様子を相談し、安心して旅の計画を立てることを目的にオンラインツアーを実施します。松江の「enun（縁運）」のコワーキングスペースを拠点としてオンラインツアーを実施する。

テーマ：ジオパーク、後醍醐天皇、古事記、伝統芸能（神楽など）、日本酒

撮影場所：西ノ島町、知夫村、松江市（enun）

撮影予定：2月1回、3月1回

※下見、取材を12月16日（金）～18日（日）

HP：[世界仮想旅行社 | Peatix](#)

3. 湊・交流50（ご縁）フェスティバル

※隠岐航路七類港就航・境水道大橋開通50周年記念事業

【実績】

日時：11/27（日）10：00～16：00

場所：メテオプラザ（松江市美保関町七類）

隠岐汽船商事に依頼し物販並びに観光PRを実施。

《事業評価》

コロナ禍のためリアルイベントは開催出来なかったが、オンラインイベント等情報発信事業を中心に実施した。今後も広域での交流、連携を深め情報発信強化⇒誘客に繋げていく。

(11) パンフレット作成 4,280,000円 ⇒ 4,242,381円

これまで隠岐観光協会にて発行していた観光パンフレット「隠岐楽」の作成、及び旅行会社向けデジタルパンフレットの体験料金改定等の編集を行う。

【実績】

企画提案公募、審査会を実施し、(株)JTB山陰支店を選定・委託し作成。

「配布用リーフレット」については在庫分を使用することとし、新たに作成はしなかった。

- ・隠岐楽
発行部数：30,000部
サイズ：A4判
ページ数：36P（表紙、裏表紙、広告5Pを含む。）
- ・旅行者専用資料（料金表データ）
サイズ：A3見開き
ページ数：6P（表紙、島前2P、島後2P、裏表紙）

《事業評価》

隠岐ジオパークのパンフレットと統合し、隠岐ジオパークの説明も盛り込んだ内容に一新した。

(12) インバウンド対策 3,000,000円 ⇒ 3,422,000円

海外の旅行会社に対してオンラインによる営業活動を行う。また、英語サイトの記事追加などWEBの充実を図る。

【実績】

- ・ヨーロッパの旅行会社16社（16名）、オーストラリア旅行会社6社（6名）、アメリカの旅行会社6社（15名）に対し、オンラインにて隠岐についてセミナー及び個別商談会を実施。事前と事後のアンケートを通して、各社の隠岐旅行商品の造成の可能性と造成に向かうことに当たり課題を調査。9月にVISITJAPANトラベル&MICEマート2022へ出展し、隠岐の観光資源の特徴や隠岐地域は目指す観光と親和性が高いと思われる旅行会社18社と商談会をし、開催後に問い合わせに対して隠岐商品造成に向けて対応している。

情報発信については、Tokyo WeekenderのIslands Travel Guide（日本の離島を紹介する特集）

に雑誌及びウェブ記事掲載、SNS広告の実施、英語ウェブサイトのコンテンツ充実等実施。

引き続き、インバウンド観光客向けに満足度調査を実施し、必要な受け入れ整備や情報発信の戦略に役立てている。

- ・英語研修の実施 422,000円

観光庁「環境に配慮した持続可能な周遊観光促進事業」を活用し、英語研修を2回実施。

- ・1月31日（火）島前会場：26名参加
- ・2月 1日（水）島後会場：21名参加

《事業評価》

受入態勢が進み、インバウンド需要の回復を見据えた準備ができつつある。また、昨年度作成した専用資料を活用し商談会に参加したことで、旅行会社に戦略を持って働きかけ商品造成に繋がっている。次年度は海外向けの情報発信、旅行会社向けの誘客対策を更に強化する。

(13) 看板商品創出事業 15,084,854円 ⇒ 14,009,506円

観光庁「地域独自の観光資源を活用した地域の稼げる看板商品の創出事業」を活用し、秋冬の看板商品となるようなコンテンツの開発を行う。また事業実施にあたっては、4島に配属されるJTB隠岐プロジェクトメンバーとともにコンテンツの開発を行う。

【実績】

「人と自然をつなぐ島」隠岐ジオパークの地域資源を活用した持続可能な観光地域づくり事業

①独自の神話や伝説を、専門ガイドとともにジオパークで紐解く神社仏閣巡り体験（4島）

神社仏閣ツアーの造成と隠岐旅工舎HP上での販売。試走とガイド養成講座の実施。

専用LPと隠岐の島旅での紹介記事作成。女性・子供用e-bikeの購入。

11/29-12/1 モニターツアー実施。

②海士町独自の人の営みが創り出す超ローカル体験（海士）

生業ツアーの企画造成とモニターツアー（5本実施）

③ジオガイドと楽しむエコキャンプ体験（西ノ島）

11/19 リゾ隠岐ロザージュにてモニターイベントを実施（対象：島内の観光関係者）

④隠岐で「ととのう」ジオパークトレイル&ジオサウナ（知夫）

1/28 知夫の里にてモニターイベントを実施（対象：島内の観光関係者）

⑤隠岐松葉ガニと日本酒で楽しむ、ゆっくりお宿滞在オールインクルーシブプラン（島後）

1/17-18 羽衣荘にてモニターツアーを実施（対象：旅行会社の個人旅行企画担当者）

⑥インバウンド対応のジオパーク拠点施設発着のガイドツアー（西ノ島・島後）

西郷港と別府港で、10月～12月土日の到着便に合わせてコンシェルジュサービスを実施

《事業評価》

これまで実施出来ていなかった神社仏閣巡りに特化した体験メニューや各島での新たな体験コンテンツを造成出来た。モニターツアー参加者の意見等を反映し、更にブラッシュアップし売れる商品を目指す。

(14) SDGsコンテンツ造成 5,000,000円 ⇒ 4,231,593円

国際海洋ゴミシンポジウムの開催。

【実績】

2023年3月10-13日に海洋ごみ、子ども、世界を土台として「国際海洋ゴミシンポジウムin隠岐」を実施した。10-15歳の~~日本全国のジオパークから5-10名~~、島内の子ども~~5-10名~~合計2015名程度を対象とし、が参加し「海洋ゴミ調査隊」と題したフィールドワークツアーを行った。また同時開催で3月11日に、オンライン・現地参加会場のハイブリッド開催で、海洋ゴミに関する国際シンポジウムを開催するした。日本各地、世界各地より、海洋ゴミに関する調査や研究の発表を行った。島民も自由参加、~~全編オンライン~~現地およびオンラインでの参加も含め74名が参加した。

《事業評価》

2021年度に引き続き、隠岐地域にて海洋ゴミ イベントを実施することができた。前回は国内のみに周知し小規模で実施したが、2022年度は国外の地域にも呼びかけ隠岐地域から全国、世界に向けてイベント開催を周知し、国際シンポジウムを実施できた。

また、島内の高校生による英語での事例発表の機会を創出することができたのは、隠岐のこどもたちの自信につながるきっかけになった。

(15) 中四国ライブネット事業 436,666円 ⇒ 471,811円

中国四国地域における認知拡大と誘客促進にむけて、山陰海岸ジオパーク、島根半島・中海宍道湖ジオパークとの共同事業としてBSSラジオを通じて2023年3月5日に実施。

【実績】

令和5年3月5日（日）18時～20時の時間帯において、山陰海岸ジオパーク、島根半島・中海宍道湖ジオパークとの連携事業として、中四国地域におけるジオパーク及び隠岐地域の認知度向上を目的としてラジオ番組に参加し隠岐の魅力について紹介した。

(16) ジオパーク探求ツアー商品造成 2,813,355円 ⇒ 2,511,727円

各シーズンの誘客マーケティング施策に沿って、メディア、インフルエンサーなどを招請し、WEB・SNSでの広告展開を行っている。

【実績】~~雑誌媒体、WEB媒体、山陰エリアの地方媒体、インバウンド向けWEB媒体、旅インフルエンサーなど、ジオパークコンテンツの造成時に合わせて、その体験や取材を中心として来島取材・露出を実施。~~

知的好奇心の高い層へのプロモーション、養成ガイドのスキルアップ実践トレーニングを目的とした「歴史探求メディアツアー」の実施ならびに、商品造成と養成ガイドのスキルアップ実践トレーニングを目的とした「ふしぎ発見モニターツアー」をそれぞれ実施した。

・歴史探求メディアツアー

期間：①2022年8月22日～8月24日 ②8月29日～8月31日

回数：2回

参加媒体：計7社、計8名（内訳：①2社 2名、②6社 6名）

・ふしぎ発見モニターツアー

期間：①2023年1月7日～1月10日 ②2023年1月9日～1月11日

回数：2回

参加媒体：計2社、計4名（内訳：①1社 1名 ②1社 3名）

《事業評価》

メディアを招聘するにあたり掲載費を必要としない「旅費のみを負担する形式」での実施は、費用の負担を抑えるだけでなく隠岐のことを知った上で紹介したいメディア、隠岐としても取り扱ってもらいたいメディアに情報を載せることができ、今後も継続していきたい。

書式変更: 本文、両端揃え、インデント: 右: 2 mm, 左 2 字, 間隔 段落前: 0.1 pt, 行間: 固定値 17 pt

書式変更: 本文、両端揃え、インデント: 右: 2 mm, 左 2 字, 間隔 段落前: 0.1 pt, 行間: 固定値 17 pt

6. 着地整備事業 19,300,000円 ⇒ 18,024,567円

(1) WEBサイト統合 3,901,150円 ⇒ 3,957,250円

ジオパークWEBサイトの改修。

【実績】

一般の観光客、ジオパークに興味があり学びたいと思っている層、研究やリサーチを行っている方々、世界中のジオパーク関係者など広域に渡る閲覧者に対して基本的な情報から研究に関する情報まで、地域やジオパークのこれまでの成り立ちから現在進行形で実施している最新の情報までを網羅するため、WEBの校正について全グループの視点から改修した。

《事業評価》

ジオパークの情報をしっかり掲載出来、また見やすくなったと評判は良い。

(2) 隠岐の島旅予約システム維持運営費 1,758,000円 ⇒ 1,758,020円

旧隠岐観光協会HP「隠岐の島旅」の管理費。

(3) ジオパークホームページ管理費 375,000円 ⇒ 307,120円

旧ジオパーク推進協議会HPの管理費。

(4) 観光人材の確保・育成 500,000円 ⇒ 267,646円

島内の観光産業に携わる人材の育成を行う。今年度は4島内の観光協会間の交流やアクティビティの体験を通して、お互いの島を知ること为目标とする。

【実績】

島内のアクティビティのうち、ジオパークとして特に売り出していきたい代表的なコンテンツを中心に、ジオ推職員、観光部会会員、各観光協会の職員、事業者職員などに広く声をかけ、アクティビティの理解や販促のための学びの機会を実施した。

- ・9/10 自然体験活動指導・支援者養成講座：2名参加
- ・9/22、10/18 シーカヤック体験会：11名参加
- ・10/3～10/18 職員研修（4島観光協会勤務）：1名参加
- ・10/27 第2回グランドデザインPDCA研修：1名参加
- ・10/19 E-bikeガイドツアー体験会：4名参加
- ・グロービスeラーニング10月受講：3名受講
- ・GMAP（BF編1科目受験）：3名受験

《事業評価》

島内観光人材の育成が徐々に定着しており、職員のモチベーションアップに繋がっているの
で、島外関係者との交流も含めて今後も継続して実施が必要。

(5) 海士町拠点施設管理運営業務 1,859,914円 ⇒ 1,841,006円

海士町から業務委託を受けて、ENTO地下1階にある海士町ジオ拠点施設の運営を行う。

(6) 拠点施設企画展開催 1,050,000円 ⇒ 870,295円

4島にある各ジオ拠点施設にて、企画展を開催する。

【実績】

年度内に2回の実施。うち1回はジオパークの保全保護を啓発するため「隠岐にやってきたエ
イリアン」展を隠岐4島の巡回企画展として実施。本企画展は三瓶自然館で実施された外来種

企画展に着想を得て、同館から展示資料の貸与などで協力を得た。また、企画展の実施はNPO法人隠岐しぜんむらに委託し、展示パネルの制作や設営を依頼した。

「隠岐にやってきたエイリアン」展

- ・隠岐の島町（隠岐自然館）：7月15日～8月28日・・・期間中入館者1,603人
- ・海士町（Entoジオラウンジ）：9月1日～9月28日
- ・西ノ島町（別府港第2ターミナル）：10月2日～10月30日
- ・知夫村（来居港ターミナル）：11月1日～11月30日

「海からみるジオパーク」展

- ・隠岐の島町（隠岐自然館）：3月11日～5月7日時点・・・期間中入館者484名

《事業評価》

2022年度は夏季企画展と春季企画展の2回実施することができた。うちひとつはジオパークの保全保護を啓発するため隠岐4島の巡回企画展として実施。また、海洋ゴミシンポジウムとの連動性を持たせ、3月11日より「海」をテーマとした企画展を開催。海という隠岐にとっては身近なところから、ジオパークの理念や魅力を発信しつつ、常設していない岩石・魚類剥製などの展示物を活用することができた。なお、この企画展は5月7日時点で終了予定であったが、島内の小中学校の海洋ゴミ問題の関心も高いことも考慮し、企画展6月末まで延長することとした。

(7) ガイド活用計画策定 4,998,520円

これまで育成してきたガイドの活用とスキルアップを行う。活用にあたっては、中期計画の策定とガイド紹介WEBページの作成を行い、顧客との適切なマッチングを図る。

【実績】

9月よりガイド活用計画策定業務を事業者へ委託し、地域内の18名のガイドにヒアリングを行った。~~現在~~ヒアリング結果をもとに策定した活用計画および報告書の~~提出待ち~~を作成及び顧客との適切なマッチングを図ることを目的としたガイド紹介WEBページを作成~~した中~~。~~3月中旬に納品予定。~~

《事業評価》

~~通し~~本事業を通して隠岐地域におけるガイドの状況を把握することができ、また改めてDMOとしてガイドをどの様に活用していくかの方向性を決めることができた。(養成も含む)次年度は、5月末に各島のガイド関係者に説明会を開き、9月以降から養成等を実施していく。また、2022年度に作成したガイド紹介webページも記事を追加していく。

(8) ガイド交流 148,600円 ⇒ 154,710円

例年、隠岐、島根半島宍道湖・中海ジオパーク、山陰海岸ジオパークと事務局、ガイド等による情報交換・交流促進を図る事業を輪番で実施している。今年度は隠岐がホストで実施する。

【実績】

~~令和5年2月末に~~隠岐と島根半島・宍道湖・中海ジオパークと山陰海岸ジオパークと合同で交流事業としてを2月28日、3月1日~~の~~に1泊2日の研修を実施~~予定した~~。

地域ごとで交流に参加する事務局員、ガイドを対象に参加者募集を行い、2地域より9名~~が参加予定~~、~~隠岐地域からはガイド~~ 8名、計17名~~が参加~~

《事業評価》

近隣県である2地域の事務局員とガイドが交流することで、ジオパークについての考え方や互いの取り組みの情報交換やガイドの際の注意点などを再確認する機会となった。またここ数年コロナ禍もあり、地域外のガイドと現地対面で交流する機会がほぼなかったため、隠岐のガイドにとってもかなり良い交流となった。

(9) 島前地域予約システム確立 3,870,000円

島前地域のタビマエの観光窓口の一部（電話・メール）を一元化することによって、顧客目線での利便性を高めるとともに、島前3町村の観光協会の人員不足を補うことを目的とする。R4年度は秋季に実証的に実施し、R5年度以降の本格導入を目指す。

【実績】

隠岐の島旅内にやりとりの手軽さのあるチャットボットを設置し、メール以外のコミュニケーション手段を整えている。島前3町村向けのアクティビティに関するWEB、メールでの問い合わせを集約化し、窓口の一本化での運用が進んでいる。また2月より電話分岐システムを使った電話対応の一本化のトライアルをスタートした。これにより、旅前に係る問い合わせの大部分を集約し、顧客満足度を高めている。

《事業評価》

10/1開始のためサンプル数は少なかったが、島前3町村のアクティビティに関するWEB、メールでの問い合わせを集約化、また2月より電話分岐システムを使った電話対応の一本化が出来たので、次年度以降旅前に関する観光協会業務を効率化出来る。

次年度は隠岐4島に手配領域を拡大する予定であり、これにより4島に分かれてしまっていることによる顧客から見たときの問い合わせフローの煩雑さが解消されることが期待される。

7. 周辺産業への波及事業 650,000円 ⇒ 609,210円

(1) ジオ認定商品店支援 6,440円

認定商品の認定シールを作成し販売促進につなげる。

(2) ジオパッケージ作成助成 602,770円

隠岐ならではのお土産づくり及び隠岐商品の販売促進を目的として、商品パッケージ作成の支援を行う。

【実績】

12月に審査会を行い、認定商品として「木のストロー」（隠岐島木材業製材業協同組合）「パイ貝アヒージョ 缶詰」（マキノ水産）「岩ガキのコンフィ缶詰」（マキノ水産）を採択。また、パッケージ助成として「パイ貝アヒージョ 缶詰」（マキノ水産）「隠岐たまご」（東貴一郎）を採択した。

《事業評価》

隠岐ならではの新たな商品、パッケージが生まれつつあるので、引き続き支援を継続する。

8. 保全事業 100,000円 ⇒ 207,900円

(1) サイトカルテ更新 0円※事務局運営費のみ

他地域のジオパークにおけるサイトカルテの状況を調査し、盛り込むべき情報などを事務局内で検討し、既存のカルテデータを修正する。

【実績】

ジオパーク全国大会（10月）やジオパーク全国研修会（11月）への参加を通じて、他地域の事例を収集し、サイトカルテに盛り込むべき情報の洗い出しを行なった。1月～3月に既存のサイトカルテおよびサイトリストの情報を統合・整理し、新サイトカルテのひな型を作成。

《事業評価》

昨年の現地審査員からの推奨事項にもある保全計画の策定が急務である。R4年度は上記実績のとおり、既存サイトの課題点などを整理した。R5年度は保全計画の基礎資料となるサイトカルテの見直しを行っていく。

(2) 保全計画策定 0円※事務局運営費のみ

事務局内で保全についての理解を深める講演会などの実施や海外のUGGpから事例を収集し、保全計画の必要性の共通認識を高める。

【実績】

ジオパーク全国研修会（11月）に参加し、保全計画策定の方法について情報収集、協議した。そのうえで、隠岐版の保全計画を策定する際のパートナーとなる環境省と協議・調整し、R5-R6の2カ年規模でのスキームを計画予定。

(3) 解説看板更新 207,900円

劣化看板を中心に必要箇所を選定し、盤面は景観に配慮した茶色ベースとし、塩害などへの耐性が高い素材を選ぶ。また、自然や地史とのつながりを記述として盛り込み、教育やガイドでの活用しやすさを重視して作成する。

【実績】

久見海岸・岬の爆裂火口（島後）、赤尾展望台（西ノ島）、御波から見る島前カルデラ（海士）、赤壁の火砕丘（知夫）の5基を対象に更新。茶色背景やつながりコーナーなど新レイアウトへの更新を基本としつつ、久見海岸など一部のサイトでは、主要な地質遺産の価値をより訴求できるようにリライトするし、2月中旬にデータ完成・入稿、3月に施工完了予定した。

《事業評価》

劣化した看板の更新に合わせて、自然景観に配慮するために背景を茶色ベースにし、つながりコーナーなど新レイアウトを追加することで、これまで以上に主要な地質遺産の価値をより訴求できるよう解説看板となった。

9. 学術研究事業 3,337,000円 ⇒ 2,969,770円

(1) 調査研究事業 2,137,000円 ⇒ 1,887,603円

①隠岐に生育するハマナスの遺伝子的特徴を明らかにし、保全のための基礎資料とし、パスツアーの開催により、地域の方の保全意識を高める。

②ミズナラの生育条件を解明することで、隠岐独自の生態系の価値を高める。

【実績】

- ①春～夏の開花時期に合わせて野外調査および試料採取を実施。ハマナスの遺伝子解析は島根大学の研究者に委託し、解析を進めている。並行して保全に関する啓発活動も実施しており、布施地区の小学生らを対象に学習会と清掃活動を合わせたイベントを開催した。また、具体的な保全活動に繋げるべく、大田市の自生地を視察し関係者と協議した。
- ②ミズナラの調査については、島前島後において野外活動を実施し、生育環境の調査や種子採取を行った。今後は温湿度データや分析データと照合させながらより詳細な生育条件を明らかにし、保全の基礎資料として活用する。

《事業評価》

- ① ハマナス保全事業については、公民館などとも連携し布施地区の子どもたちへの学習・体験機会の提供につながった。公民館・教育委員会・環境省・地域住民らと連携したイベントのノウハウが蓄積されたことで、今後は別の題材をテーマにしたイベントを行う際にも生かすことができる。
- ② ミズナラの生育条件を明らかにするには、今後も継続的な研究が必要であるが、現時点での成果を学会で報告するなど隠岐独自の生態系とその価値を地域内外へ伝えることができた。

(2) 研究活動助成事業 1,200,000円 ⇒ 1,082,167円

ジオパークとして明らかにしたい研究テーマを支援し、また行った研究についての発表会を開催し、ガイドをはじめとした関係者の理解向上の場を設ける。

【実績】（教育・環境G：立花）

隠岐片麻岩やオキサンショウウオなどをテーマとした、新規5件、継続1件の事業を採択。
~~10月末時点で中間報告をうけ、引き続き各研究者によって現地調査や分析がを進められている行われた。今後は、2月末に実績報告を提出しもらい、3月18日にオンラインで成果発表会を予定している開催した。~~

《事業評価》

今回の成果発表会では、オンラインでの参加が難しいガイドや地域住民にも参加してもらうために、サテライト会場を島前島後で1か所ずつ用意し、島後会場は6名程度がサテライト会場にて参加し、研究者と活発な意見交換する場の創出ができた。次年度も隠岐地域の地域資源の研究を推進していくために事業を展開するが、発表会のやり方も含めより良い研究成果が上がり地域に還元できるように助成要綱など見直ししていく必要がある。

10. マネジメント事業 2,810,000円 ⇒ 2,835,957円

(1) 観光地マネジメント 2,000,000円 ⇒ 2,014,260円

観光地経営のための組織体制のあり方やマーケティング手法の導入など、中期的視点での事務局体制へのアドバイス及びマーケティンググループとともに当年度季節ごとの観光戦略を策定し実行する。

【実績】

観光部会、マーケティンググループの効果的な運営と、当機構のビジョンから地域振興へつ

なげるための樹形図作成、KGIの見直しや来年度の事業設計などを行った。

また、事務局体制を強化するため、1～2月に職員研修を実施した。

《事業評価》

当機構のビジョンから地域振興へつなげるための戦略について、当機構職員はもちろんのこと理事、会員への共有が出来たが、次年度以降地域住民等幅広い関係者への説明、理解を深めていくことが必要。

(2) 部会運営 810,000円 ⇒ 821,697円

地域内の環境・教育・観光の各分野の担い手が部会員となる観光部会及び教育・環境部会の運営、また地域のステークホルダーや事業者、行政との意見交換の場として「地域づくり推進会議」の開催を予定しており、「環境×教育×観光」施策展開に活かす場とする。

【実績】

○教育・環境部会

~~6月から12月まで、令和4年のは2ヶ月に1回の頻度で~~計34回実施。事務局からの事業計画・報告、アクションプランの共有をするとともに、部会員からの教育活動の報告や保全活動の事例紹介を議題として扱っ~~た~~てている。

○観光部会

5月から1月まで毎月1回計9回実施。シーズンごとの戦略の共有、戦術の検討ならびに、それぞれの島や観光客の同行などの吸い上げも行っている。

《事業評価》

両部会とも定例化して来ており幅広い関係者への巻き込みが出来てきたが、次年度以降はより議論が深まるよう部会員に会議の目的等事前に伝えることを徹底していく。

(3) 財務戦略

DMOの中長期的な安定的な組織運営のために、自主財源の導入に向けての検討を行う。

【実績】

「DMO財源開発研究セミナー」（主催：京大オリジナル株式会社）を受講。講師から隠岐地域にとっての自主財源の最適なあり方（入域税、入島税）の助言を受ける。

次年度以降自治体の特定財源の導入も視野に入れてさらなる検討を行う。